

# ロシア 東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2002年(平成14年)8月15日 No.1235

## 目次

南コーカサス地域の現状と日本の対応 (ROTOBOメンバーズ・ブリーフから)	1
エトセトラ	9
小川和男著『日本・ロシア経済関係の新展開』/9	
ロシア東欧貿易会関連の行事予定	10
C I S・中東欧諸国通貨の為替レート	10

## 南コーカサス地域の現状と日本の対応

(ROTOBOメンバーズ・ブリーフから)

### はじめに

2000年5月から2002年6月初めまで駐アゼルバイジャン特命全権大使(グルジアを兼轄)を務めてこられた廣瀬徹也大使が、このほど帰朝された。当会ではこの機会に廣瀬大使をお招きし、「南コーカサス地域の現状と日本の対応」と題して、当会会員向けのメンバーズ・ブリーフを開催した。今回の速報では、7月26日のメンバーズ・ブリーフにおける廣瀬大使の講演内容を抜粋して紹介する。

### 1. コーカサス地方をめぐる国際環境 その地政学的重要性

アジアとヨーロッパ、北のスラヴ世界と南のイスラム圏の接点に位置し豊かな自然、天然資源にめぐまれたコーカサス地方は歴史的に周辺の諸大国に圧迫され続けてきた。中央アジアとコーカサスは19世紀以降、ロシア帝国、続いてソ連に編入されたが、1991年末のソ連崩壊に伴う各共和国の独立以後、ロシアによる影響力の確保のねらいとこれに対する米国を筆頭とする欧米側の拮抗、カスピ海地域の石油や天然ガスの開発と輸送路をめぐる域内・域外各国の経済的利害の対立、イスラム過激派の封じ込め、さらには、国際情勢を利用して自国の安全保障を確保し、国内少数民族による独立運動や隣国との紛争の有利な解決を図らんとする域内諸国の思惑等を要因としてパワーゲームが展開されてき